

建第 1252 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

新潟県出雲崎町長 小林則幸



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のことについて、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

新潟県 出雲崎町

・多くの地方自治体が財政運営に苦慮され、今後も更に厳しい状況が続くものと思うが、財政力の弱い自治体ほど公共交通機関が脆弱で自家用車が住民の生活を支えている地域を多く抱えているものと思われる。

道路の維持管理は人の移動がある限り継続するものであるため、財政力の弱い地方自治体であっても将来に渡る道路の維持と小規模な改修費用が最低限確保される財源の交付が行われる施策の確立を希望する。

・道路事業には莫大な事業費を伴うが、その執行は国民の負託を受けた政府・行政機関が国民に代わって行っていることであり、常に適正かつ最大限の効果が発揮されるよう徹底した取り組みを願いたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

新潟県 出雲崎町

| | |
|--|--|
| <p>○ 現状</p> <ul style="list-style-type: none">・国道116号、352号の改築により災害に強い道路を実感するとともに、未改築の国道、県道では、土砂災害を頻発する地域を抱えている。異常気象時には小さな土砂崩壊でも通行止となり、広い地域の孤立を招く恐れのある災害に弱い道路が多数存在している。 また、マスコミなどによる災害報道は安全に不安のある自治体との印象を与え観光産業に大きなダメージが生じている。・過疎化が進行すると、電車、バスのサービスが低下する。公共交通を最も必要とする、高齢者や子供(修学生徒)が移動の手段をうばわれ、生活の不自由な地域から都市部へ転出する家族、若者が増加し、更に過疎化が進行する。・町道の除草や側溝掃除、ゴミ拾いなどはこれまでの慣習で地域住民が自動的に行っていたが、高齢化により作業が困難な地域も出てきた。今後はこのような費用も増加することとなるため維持管理費用の不足が心配される。 | <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none">・国道352号、402号、県道の改築促進と、災害防災対策の促進。・路線バスと地域福祉バスをミックスしたコンパクトでフットワークの軽い移動手段の取り組み。・幹線町道を含めた主要な道路の、雪に負けない安心な道路整備の促進。・財源確保はもとより、地域のマンパワーを活用する方策の検討。 |
|--|--|

②-2 地域の目指すべき将来像

新潟県 出雲崎町

・今後、東アジア地域との交流が益々重要になる中、日本海沿岸の拠点となる空港、港湾も国際競争力の強化が急ピッチで進むものと思うが、本県のそれら施設が更に中枢となるよう、アクセス道路の高規格化に遅れが生じないことを願うとともに、単なる玄関口にとどまらず日本海側各県を結ぶ産業、経済圏の構築に繋がる、地方の拠点となる都市間の物流を担う幹線道路網の整備が促進され地方経済が活性化することを望んでいる。

地方の産業、経済力の回復が当町の活力ともなり、歴史ある地域の遺産と美しい自然を生かした産業を促進し、農業・漁業の足腰の強化を図りながら高齢者や子供たちが安心して快適に暮らすことのできる町づくりに努めたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

新潟県 出雲崎町

| ○重点事項 | ○代表事例 | ○期待する効果や評価等 | ○その他 |
|--------------------------------|---|---|--|
| ・国際競争力の強化のための交通サービスの向上 | ・日本海沿岸東北自動車道の早期全線開通 ・地方都市間を連絡する幹線道路の整備促進 | ・北陸から東北地域の産業連携と東アジア地域との直接交流拡大 ・北陸新幹線2014年開業と相乗効果を發揮する高速交通ネットワーク形成の促進 ・地方都市の産業、経済力強化 | |
| ・地域活力の向上 | ・国道352号、402号未改築区間の早期整備 | ・長岡地方拠点都市地域の連携強化と物流、経済交流の促進 ・海浜観光ゾーンへの集客の促進 | |
| ・水害等の災害に強い国土づくり | ・国道352号、402号及び県道の未改築区間の早期整備 | ・異常気象時においても心配のない道路交通と避難、救助道路の確保 | |
| ・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 | ・国道352号、402号及び県道の未改築区間の早期整備 ・幹線町道の2次拡幅の促進 ・人の移動を支える社会実験 | ・総合病院まで30分以内の安心な道路確保 ・通勤、通学、生活や経済活動のすべてを支える安心、安全な道路整備 ・児童の通学、老人の通院・買い物を地域が支える運送実験 | ・元気な高齢者が地域の高齢者の移動を担う現実において、冬季でも雪に負けない安心な道路の確保 ・NPO有償運送・エコカー導入・過疎地域の移動システム研究など、利用者と産学官を巻き込んだ実験ができるのか |